

学校施設と公共施設の複合化事例視察報告

1. 開催日時

平成 28 年 10 月 31 日（月） 午前 8 時 30 分から午後 5 時 15 分

2. 視察施設

- (1) 戸田市立芦原小学校（埼玉県戸田市大字新曾 1961）
- (2) 千代田区立昌平童夢館（東京都千代田区外神田 3-4-7）

3. 視察概要

(1) 戸田市立芦原小学校

芦原小学校の施設概要等を説明いただいた後、施設を見学しました。施設の特徴については、以下のとおりです。

- ・用途 小学校に生涯学習施設、クラブハウス、学童保育施設を複合化
（放課後子ども教室実施学校）
生涯学習施設：ふれあいラウンジ、集会室
クラブハウス：更衣室、会議室、ミーティングルーム
- ・敷地面積 14,852.00 m²
- ・建築面積 5,237.78 m²
- ・延床面積 11,245.30 m²
- ・構造 地上 4 階建て RC 造、一部SRC 造、S 造
- ・工期 平成 15 年 7 月～平成 16 年 12 月（平成 17 年 4 月開校）
- ・総工事費 約 33 億円

- ・1 階に職員室、アリーナ、生涯学習施設、1～2 年生の教室、2 階に特別教室、3 階に 3～6 年生の教室、屋上にプール、ビオトープや太陽光発電機を配置している。

- ・基本構想及び基本計画の骨格は、「多様な教育に対応した自由な学習空間の創造」、「高機能化・情報化に配慮した学校整備」、「安全で快適な生活・環境に配慮した学校」、「地域に開かれ、連携する学校」、「豊かな人間性を育む学校」。

これらは、現在の学校のランドデザインにおける学校の使命となっている。

- ・設計のコンセプトには、「アクティビティを喚起する空間」、「多様な屋外空間」、「地域に開かれた学校」、「バリアフリー」、「安全性」の 5 つが掲げられていた。



会議室（1F）
（視察の様子）

（平成 28 年 11 月 14 日委員会資料）

- ・特別教室は2階に集約されており、授業時間外となる夜間や休日に貸出を行っている。
- ・特別教室は、音楽室や視聴覚室のように音の出る教室などを除いて、廊下との壁がなく、一体的な使い方ができるようになっており、イベント等に活用する場合もある。
- ・教室もオープンスクール形式で廊下との間仕切りがなく、オープンスペースも可動家具で仕切れるなど、各担当が特色を出して活用している。
- ・学校の特別教室の貸出は、学校で管理している一方、生涯学習施設部分については、生涯学習課が所管するクラブハウス事務室で管理している。なお、生涯学習施設部分は学校も利用している。
- ・学童保育施設はここだけでなく、同じ学区に民間の学童保育事業所が他に3つあり、児童を受け入れている。
- ・複合化しているそれぞれの施設ごとのエリアは整理されているものの、生涯学習施設の入り口へのアプローチがグラウンドの脇を通ることや、1～2年生の教室の前を施設利用者等が通れるようになってきていることなど、児童と施設利用者等との動線は完全に切り離されていない。これは、多世代の地域の方々との交流を促すことを意図したことによるものであり、地域に開かれた学校という当初の考え方のままとされている。
- ・児童の安全については警備員や教員等による見守りにより確保している。見守りやすくするため、通路の入り口付近に職員室や校長室を配置するほか、ガラス張りなどになっており、見通しが開けた設計となっている。ただし、1・2年生の昇降口について、授業中は施錠し、屋外からは直接入れないようにしている。



パス（1F 屋外通路）
（学校や学童等への共有アプローチ）



特別教室（2F）
（廊下と一体となっている）



屋上から見た2階デッキ
（多様な屋外空間）

（2）千代田区立昌平童夢館

昌平童夢館の施設見学後、施設概要等についての質疑応答等を行いました。施設の特徴については、以下のとおりです。

- ・用途 昌平小学校、昌平幼稚園(保育園含む)、神田児童館、まちかど図書館の複合施設
 神田児童館：学童クラブや一時預かり保育のほか、放課後子ども教室を実施
 まちかど図書館：学校の図書室も併設。コミュニティ活動支援のため、小学校の授業や区の事業が行われていない時間において、昌平童夢館の一般への開放の受付も担っている。

（平成28年11月14日委員会資料）

- ・敷地面積 3,412.52 m²
 - ・建築面積 2,120.39 m²
 - ・延床面積 15,007.23 m²
(児童館約 1,390 m²、図書館約 190 m² (共用部含まず))
 - ・構造 地下 2 階地上 6 階建て SRC 造
 - ・工期 平成 6 年 8 月～平成 8 年 8 月
 - ・費用 約 79 億円
-
- ・千代田区内の小学校 14 校を 8 校に再編・整備するなか、2 つの小学校（芳林小学校と淡路小学校）の統合にあわせて、旧芳林小学校のあった位置に小学校、幼稚園、保育園、児童館及び図書館の 5 つの機能を複合化した事例である。
 - ・昌平小学校（昌平童夢館）のコンセプトは、地域に開かれた学校であり、地域に開かれた特色ある教育活動として「複合施設のコミュニティスクールを生かした家庭・地域との連携」、「地域の人材の積極的な活用」、「学校運営連絡会の充実」を掲げている。
 - ・1 階にそれぞれの玄関を分けたかたちで、幼稚園、図書館（学校図書室含む）、学校入口（屋外階段のみ）及び児童館入口、2 階～4 階に小学校の教室等、5 階に児童館、6 階に校庭、地下 1 階に給食室や防災用備蓄倉庫、地下 2 階に屋内プールが配置されている。
 - ・教室はオープンスクール形式で廊下との間仕切りがないものの、1 学年 2 教室が基本のため、オープンスペース（学年ホール）がコンパクトとなっている。
 - ・文部科学省の小学校施設整備指針では、校舎は 3 階以下の建物として計画されることが望ましいとされるが、昌平小学校の教室は 4 階にも配置されている。
 - ・コミュニティスクールとして位置付けられ、小学校のプール、校庭、体育館や特別教室、児童館の集会室等は貸出が行われている。
 - ・小学校の施設についても授業時間外の貸出が行われており、2 ヶ月前までの貸出予約に先行して学校は計画的に行事の準備を行い、施設の利用計画を立てている。
 - ・貸出の受付等は 1 階にあるまちかど図書館が担っている。
 - ・区内在住者が半数を占める団体が利用する場合は、利用料金が半額になる。
 - ・昌平童夢館全体の運営会議を、主にスケジュールの共有のために月 1 階実施している。
 - ・建物全体の管理を、総合管理業務として委託している。
 - ・祭り等地域イベントにも使われるため、家庭科室を 2 階に設け、ブリッジで道路を越えた向かい芳林公園へ給仕できる等配置にも工夫がある。
 - ・芳林公園は、平時午前中を学校専用として使用するとともに、夜間は閉園するなど、都市公園でありながら、地域住民の意向などを柔軟に取り入れた運営がされている。
 - ・防犯のため、小学校の正面玄関はオートロックとなっている。
 - ・図書館のなかに学校図書室が配置されているが、その仕切りはロープパーティションによる簡易なもので、授業時間外は、図書館利用者も学校図書室を利用することができる。
 - ・学校側から図書室を利用する際など、学校につながるドアの前には警備員を配置し、一般の利用者などが学校側へ立ち入らないよう管理している。

(平成 28 年 11 月 14 日委員会資料)

- 一般の利用者がいる図書館の中に学校図書室があることで、学校図書室の利用時の児童が公共でのマナーを意識する、授業に集中するなどの効果がある。
- 学校図書室を授業等で利用する際は、図書館を横断する必要がある。千代田区には昌平童夢館のほか、二つの小学校で他の公共施設と複合化した事例があるが、これらの施設では児童と施設利用者の動線が交錯することのないように設計した。



学校図書室 (1F)
(まちかど図書館内に設置)



プール (B2F)
(授業時間外に一般開放)



多目的ホール (2F)
(視察の様子)